



令和8年の1月も穏やかにスタートできました。今年の年のはじまりは比較的あたたかな日が続いていましたが、暦では大寒となる下旬に入り、寒さも厳しくなりました。寒暖差の大きさに体調管理の難しさを感じる今日この頃です。昨年は気象災害や熊による被害など、地球という環境の中で、人間はどのように生き、生活したらよいのかを考えさせられることが多くありました。当たり前の日常を送ることができることに感謝したいです。そして、私達人間は、地球という大きな生命体の中で生かされている存在であるということを意識し、具体的に行動することが、これからますます重要になると思います。

さて、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今年も芦子小の子ども達への応援をよろしくお願いします。今年も日々の子ども達の様子については、学校ホームページでお知らせしていきますので、よろしければご覧になっていただければ幸いです。



優しさとは「適度な距離感」～作家・重松清さんの言葉から～

冬休み明け、各学年ではそれぞれ「書き初め」の学習に取り組みました。冬休みの宿題で、書き初めの練習があった学年も多いかと思います。ご家庭でのご協力ありがとうございました。校舎には、子ども達の作品を掲示していますが、ある教室の前に「やさしさ」という言葉を書いた作品が掲示していました。書き初めで書いたのかもしれません。いい言葉です。どうしてこの言葉を書いたのか、その子に聞いてみたいと思っています。

保護者の皆さんももちろんだと思いますが、私達教職員も、芦子小学校の子ども達が優しい人になってほしい・優しい人であってほしいと願っています。実際に芦子小は優しい子が多いなと思っています。きっとご家庭や地域での子ども達への関わりが優しいからではないかとも思います。

「優しさ」について考えた時、昨年の毎日新聞に、早稲田大学で行われた作家の重松清さんの特別講義の内容が掲載されていたことを思い出しました。

その講義には小学生くらいの子どもから、お年寄りの方まで、1000人を超える方が公募で集まつたそうですが、特に印象的だったお話を、講義に参加していた学生さんに聞くと、多くが「優しさと距離感」と挙げたそうです。参加者からの「(重松)先生にとっての優しさとは何か?」という質問に対し、重松さんの考えを、新聞からの抜粋して紹介させていただきます。



「人間同士で距離があるからこそ、友人や恋人といった関係が築かれていく。でも近すぎるとお互いが苦しくなってしまうし、遠すぎても寂しくなってしまう。」重松氏はそう話した上で、「だから適度な距離感を保つて接することが大事なのだと思う。そして、その距離を調整するために、僕たちは言葉を使うんじゃないかな」・・・距離感の背景には(ご自身が:石井注)幼少期から積み重ねてきた経験が元にあるという。「根っここの所に常にアウェー感がある。転校を繰り返し、友達ができても話に入れない瞬間があったり、ある種の無常観のようなものを感じたりしてきた。だから人一倍、今この人とはどういう距離感にあるのかというのを気にしていて、それが作品にも日常生活にも反映されている」と語った。

今、社会全体をみても、「適度な距離感」がつかめないことから人間関係がうまく築けず、いろいろな形で問題になってしまうことが多いように思います。重松さんが言われるように、言葉を使いながら、適度な距離感を調整できるような力を、学校・家庭・地域という社会全体で育てていくことが大切だろうと思います。

関わる力「ことば」をとおして人と関わる力を育てる取組



地域の人・もの・ことと関わる学習の充実に努めています

小田原市では、小中学生に育みたい力として「社会力」を挙げています。「社会力」とは、子ども達一人ひとりが充実した人生を送り、よりよい地域社会をつくるために必要な力だと小田原市ではとらえています。本校でも、市の方針のもと、子ども達が地域の一員として、地域の人・もの・ことに関わりながら「社会力」を身につけられるように取り組んでいます。そのためには、まずは自分が住む地域に興味や関心をもち、その良さや課題などを見つけ、課題解決のために何ができるのか考え、少しでも実行しようとする意欲がもてることが大切だと考えています。

職員には、地域に出ていくこと、地域の方に来ていただきて子ども達に関わっていただくことに積極的に取り組んでほしいと伝えています。なかなか地域に出かける時間をとることが難しいのですが、学年それぞれ工夫しながら取り組んでいます。「どんどん出かけて」と背中を押すのが私の役目だと思っています。

先日は5年生が「Amazon フルフィルメントセンター (FC)」に校外学習に行きました。実際に働いている人や物流のシステムを見ることから得られた学びは多かったと思います。私も同行したのですが、私はどちらかと言えば、職場環境という視点から見学をさせていただきました。Amazon FC では、一日の業務の中に、業務の改善のために考えたり行動したりする時間があるとのことでした。その成果なのか、例えば皆で使う共通のもの（鍵やハサミ・カッター等々）の使い方や保管の仕方、安全に作業するための目印などの掲示物がとてもわかりやすくシステムティックで、学校でも参考になると感心しました。職員さんに伺ったところ、「大勢の職員がいるので、誰もがわかりやすく、混乱をしないような職場環境になるよう考えている」という趣旨のことをお話しくださいました。職場環境のユニバーサルデザイン化です。子ども達だけでなく大人も、外に出て、見たり聞いたりすることで、多くを学ぶことができると改めて思いました。

今年度の5年生は総合的な学習の時間に「地域貢献」というテーマを設け、高齢者施設の利用者さんとの交流、保育園の園児さんたちの交流、小田原の水産業の活性化をめざしたお魚のプロモーション活動などに取り組んできました。地域の方のお役にたっていれば嬉しいのですが、いずれにせよ地域の方と触れ合いながら、何より子ども達自身が学んだり、成長を感じたりすることが大切かと思っています。どうぞ温かい目で見ていただければと思います。他の学年でも、地域の方を講師にお招きして、絵や工作などの指導をいたしたり、お店や施設に出かけて学習をさせていただしたりしています。学校という狭い場所だけでなく、広い地域に出て、その中でたくさんのことを見たり聞くことができるよう、これからも取り組んでいきたいと考えています。

学ぶ力「児童が主体的・対話的・協働的に学ぶ
授業づくり⇒地域学習、体験的な学習の充実

